

「舗装技術者の生き甲斐と誇り」

仁瓶義夫

(社)日本道路建設業協会 会長

(日本舗道(株)代表取締役社長)

平成15年5月24日

舗装工学特別講義

はじめに

敗戦から現在までの60年間と将来を5時期に分割

各々の時代、舗装技術者は何を思い、どう生きてきたか

1. 廃墟の中から立ち上がる舗装技術者（昭和20年～昭和30年）

～ 貧しいけれど理想は高かった時代～

- ・ 当時の状況 - 社会状況
 - 工事関連（発注者、資材、舗装種別、施工体制、発注方式など）
- ・ 主な出来事 - 日本道路建設業協会の設立、建設省発足など
- ・ 舗装技術者は：自由と創意工夫

2. 工事量の増大に機械化で対応（昭和31年～昭和40年）

～ 国民の道路建設拡大の要望に応え、生き甲斐を感じた時代～

- ・ 当時の状況 - 社会状況（第一次道路整備五箇年計画施行など）
 - 工事関連（技術の確立、AP、AF＜入札資格など）
- ・ 主な出来事 - 日本道路公団発足など
- ・ 舗装技術者は：国家に貢献、地域住民に歓迎

3. 官公需法の施行と技術力、施工力の軽視（昭和41年～昭和60年）

～ 培った舗装技術への誇りを奪われた時代～

- ・ 官公需法
 - 目的、施行策、舗装業者の反応
 - 一括丸投げ：問題点、発注者の認識、加速
 - 中央業者排除：要件、変化
 - 地域要件：必要性、問題点、反対意見
- ・ 舗装技術者は：誇りを傷つけられ、志気の低下、技術の閉塞感、技術開発成果導入でのジレンマ

4 . 一括丸投げへの反省と舗装技術者復権の試み（昭和61年～現在）

～舗装技術に復権の曙光を見いだした時代～

- ・官公需法、一括丸投げへの反省、歯止めがかからない理由など
- ・一括丸投げ - 社会問題化、建設業法違反、資格制度等で対処
- ・舗装技術者資格制度 - 背景、発足、確立、舗装技術者の地位向上
- ・公共工事入札適正化法 - 施工、衝撃など
- ・アスファルト舗装工事施工体制研究会 - 背景、提言、方策と活用
- ・舗装技術者は：技術力評価に誇りを取り戻し

5 . 新しい時代の風（現在～未来）

～舗装技術への期待と責任に応えていく時代～

- ・残された問題の解消 - 施工能力、技術力を重視した入札方式、
過度の地域要件、公示価格の入札前公開など
- ・技術開発、施工技術の評価 - 性能規定発注、総合評価落札方式など
- ・国家・国民の要求する技術 - 環境対策、省エネ・省資源工法、
高齢化社会対応など
- ・舗装技術者は：舗装技術者として生き甲斐と誇りを！

おわりに

戦後の60年間と将来に対しての生き甲斐と悩み
技術を尊重する業界であるべき

< 資 料 >

- 1) 年表
- 2) 官公需法
- 3) 地方自治体施工令
- 4) 行政改革委員会「最終意見」
- 5) 提言（昭和14年4月 アスファルト舗装工事施工体制研究会）
- 6) 舗装施工管理技術者名簿
- 7) 最近の動き - 新聞記事